令和6年度学校評価報告書

北海道小平高等養護学校

1 本年度の重点目標

主体的・対話的で深い学びの授業づくりの推進
～個別最適な学びと協働的な学びによる教育活動の充実～

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

●重点的に改善が必要な項目等について掲載します。

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
教育課程 学習指導	<p>【教職員】</p> <p>質問14「ICT機器を活用した指導の充実」に関する質問に対し、肯定的な評価（達成率）は55.1%であった。寄宿舎職員と実習助手のほとんどがC評価をつけており、寄宿舎でのICT機器を用いた活動が進んでいないこと、実習助手が自らICT機器を用いる機会がないことによるものと考えられる。</p>	<p>【保護者・生徒】</p> <p>保護者の質問6「ICT機器の活用」に関する質問では達成率が100%であった。生徒の質問1の達成率も96.1%と高いことから、タブレットを活用した授業の充実について評価を得られている。</p> <p>【学校運営協議会】</p> <p>令和7年2月28日開催の第3回学校運営協議会において、「慣れていくことが必要と思われる。時代の変化に応じて学校や寄宿舎で活用できるようになっていることは魅力的である。」「目的を理解して活用できると良い。」というご意見をいただいた。</p>
改善方策	効果的な学習のために研修を継続し、日常的なICT機器の活用をさらに推進する。寄宿舎での幅広い活用と環境整備を積極的に進める。	
保護者・ 地域住民 との連携	<p>【教職員】</p> <p>質問15「あなたは地域と連携し、多様な教育活動を推進しようとしている」の達成率は61.3%であった。自分が企画運営に直接携わっている意識が低いため、もしくはコロナ禍以前の活動と比較して数値に表れたためと推察できる。</p>	<p>【保護者・生徒】</p> <p>保護者の質問7では達成率が95%であった。生徒の質問8からは96%以上の生徒が地域での学習にやりがいや楽しさを感じられるという結果が出ている。</p> <p>【学校運営協議会】</p> <p>「更生園や本校の存在が、鬼鹿地区だけでなく小平町として人口増に貢献できている。」「生徒が地域に出てきてくれるのはありがたい。」というご意見をいただいた。</p>
改善方策	総合的な探究の時間等において、持続可能で地域と学校の両者にとって有意義な活動を今後も推進する。学校運営協議会では「より良い学校教育を通して、よりよい社会を創る」ことを目指すという意識を共有し、取組を進める。	
情報提供	<p>【教職員】</p> <p>情報提供や理解啓発に関する質問16では行政職員の達成率が100%に対し、教職員は63.3%であった。「地域に対する十分な理解啓発」という点で不十分であると感じている教職員が多い。</p>	<p>【保護者・生徒】</p> <p>保護者の質問8は達成率が95%と高評価をいただいている。保護者へは様々な情報が伝わっていると考えられる。</p> <p>【学校運営協議会】</p> <p>「地域がどれほど情報を求めているかを確認することが大切ではないか。また、「なぜ学校から発信してくれないのか。」という印象をもっている方もいるかもしれない。」というご意見をいただいた。</p>
改善方策	ホームページは十分に充実が図られており、また、管内教員向けの専門性向上セミナーを継続的に開催してきた。上記の結果と併せて考えると、町民の理解啓発の点で地域を活用した学習活動等の理解啓発、充実が必要である。	